

- ② 研究協力校による実践資料のまとめ（小学校）
 - ・ 実践結果の処理と考察
 - ・ PDSの各過程における問題点とその対策
- ③ 紀要「教育課程の経営に関する研究－第1年次」発行

2 学習指導の個別化に関する研究

(1) 研究の視点

本研究は、昨年度の「個を認める研究」一個を認める働きかけをすることによって学習意欲の向上をねらった研究——の継続研究である。

第2年次の本年度は、「図画工作科」と「体育科」の2教科の授業を通して、前年度の「個を認める、働きかけを更に一步深めた」個を生かす、働きかけを追究し、児童一人一人に真の喜びや楽しさ・充実感のある学習の成立を図った。それは、「図画工作科」及び「体育科」それぞれの特質に立脚した、児童の実態把握の工夫であり、児童個々の内面にくい入る働きかけの工夫であり、学習指導過程改善の試みである。

(2) 研究の内容

「個を生かす研究」（3年研究の第2年次）

(3) 研究の概要

検証授業は、「2-1-2方式の授業研究」によって行い、研究主題の解決策の効果は、研究前と研究後に実施したアンケート・作文・作品分析・技能の自己たしかめ等の結果の比較で判定し、その効果を認めることができた。

紀要「個を生かす研究」を刊行した。

3 福島県標準学力診断検査問題の研究

(1) 研究の視点

この研究は、学習指導要領の改訂に伴い、当教育センターの標準学力診断検査問題を、全面的に改訂、作成するための研究で、継続研究事業である。

そのため、新学習指導要領に沿った検査問題とすること、及び県内各校で、自校の児童の学力の実態を分析、把握し、教育課程の改善や、学習指導の改善に役立て得る検査問題とすることを視点として研究を進めた。

(2) 研究内容と方法

① 福島県標準学力診断検査問題の研究

所員と小学校教員からなる研究委員会を構成し、国語科・算数科については、1・2・3学年用の問題の修正、社会科・理科については、1・2・3学年用の問題の作成を行った。

② 福島県標準学力診断検査の実施

1・2・3学年用の学力診断検査問題を標準化するために、層化無作為2段抽出法により、国語科・算数科では小学校15校を抽出し本テストを、社会科・理科では小学校7校を抽出して予備テストを実施した。

4 習熟度別学習指導に関する研究

(1) 研究の視点

習熟度別学習の研究は、主に習熟度別学級編成、学習指導の面から行われているが、評価・評定の問題は、残

された課題である。この解決の糸口は、生徒の習熟度に応じて、学習目標、内容をいかに組織化し、それをいかに形成させるかの二点にある。そこで、学習目標の設定と形成的評価の研究の視点からこれを追求することにした。

(2) 研究の内容

「数学Ⅰ」・「英語Ⅰ」における目標分析により、下位行動目標の洗い出し、生徒の習熟度に応じられるよう段階化し、それに対応する形成的評価問題を作成した。

(3) 研究の概要

新学習指導要領を基に、仮説的に中位以下の習熟度の生徒を想定し、「数学Ⅰ」・「英語Ⅰ」の目標分析をして、下位目標行動を段階化し、ステップを踏んで学習が進められるようにした。また、中学校の学習内容を分析し、中・高の一貫性を図るようにした。更に、下位行動目標に対応する形成的評価問題を作成し、習熟度目標が形成されれば、上位目標に、つまずいた場合は、中学校段階まで、フィードバックする機能を持たせるようにした。

この研究をもとに、紀要『「数学Ⅰ」・「英語Ⅰ」における目標分析と形成的評価問題の研究』を刊行した。

5 高等学校「現代社会」に関する研究

(1) 研究の視点

本研究は、新高等学校学習指導要領に示された社会科の必修科目「現代社会」の目標及び内容を、実際の授業におろす場合、どのように構成し、指導したらよいかを具体化したものである。特に、従来の社会科がややもすると知識・理解中心に陥り、社会的思考力・判断力の育成をおろそかにしがちであったことを踏まえ、本研究ではもの見方、考え方、学び方を習得させるために、生徒ができるだけ自発的・主体的に学習できるように指導内容の構成と指導方法の工夫を試みた。

(2) 研究の内容

「現代社会」の年間指導計画と授業の展開例

(3) 研究の概要

「現代社会」の性格とねらい、年間指導計画、授業の展開の仕方、モジュールによる学習の進め方などについて、1年間にわたって研究し、その成果を研究資料「現代社会」の研究、として刊行した。

6 高等学校「理科Ⅰ」に関する研究

(1) 研究の視点

国民的教養としての「科学の基礎的・基本的内容の習得を図る」「偏りのない自然観の育成を目指す」という高等学校理科Ⅰのねらいを基本ベースとして、中学校理科及び高等学校選択理科との関連を重視する。更に、理科の教育構造の原則に立って、教科内容を吟味すると同時に、学習過程としての「探求の過程」を重視する。

(2) 研究の内容

高等学校「理科Ⅰ」における教材内容及び実験・観察についての具体的な展開方法、また、実験・観察の教材、教具の開発や工夫。